

開設母体

要件

日本語・日本文化学類

専門基礎科目(必修)

| 科目番号 | 科目名 | 授業方法 | 単位数 | 標準履修年次 | 実施学期 | 曜時限 | 担当教員 | 授業概要 | 備考 |
|---------|----------------|------|-----|--------|------|-------|---|---|--|
| AE51A21 | 日本語・日本文化研究法 | 1 | 1.0 | 1・2 | 秋AB | 火3 | 石田 尊, 鈴木 伸隆 | 文献探索、レポート作成の方法を含め、日本語、日本文化をどのように学び、研究するかについて考える。 | 日本語・日本文化学類 正規生に限る。 対面 GDP |
| AE51K11 | Japan-Expert総論 | 1 | 1.0 | 1 | 春C | 金5, 6 | 三好 優花, 鈴木 伸隆, 石田 尊, 柴山 大賀, トゴバタ ラ ガンチメゲ, 上條 隆志, 古川 誠一, 小山 慎一, 山本 浩之 | 筑波大学のエキスパートから、日本が世界に誇る専門分野の概要を学ぶことで、グローバル人材となるための知識と見識を深める。 | 対面 実務経験教員 Japan-Expert(学士)プログラム生に限る。 |

専門基礎科目(概論)

| 科目番号 | 科目名 | 授業方法 | 単位数 | 標準履修年次 | 実施学期 | 曜時限 | 担当教員 | 授業概要 | 備考 |
|---------|-----------|------|-----|--------|------|-----|--------------------|--|--|
| AE53B11 | 現代日本語概論I | 1 | 1.0 | 1・2 | 春AB | 金4 | 石田 尊 | 現代日本語の音声・音韻、語彙、文法、談話(文章)について講義を行う。 | 対面 |
| AE53B21 | 現代日本語概論II | 1 | 1.0 | 1・2 | 秋ABC | 応談 | 石田 尊 | この講義では、現代日本語の基本的特徴に加え、表記、文章、方言、日本語の歴史等について講義する。 | 2022年度以前入学の者で、かつ教職課程の履修者に限る。 対面(オンライン併用型) オンライン授業5回と面談または対面授業5回とで実施する。 |
| AE53B31 | 言語学概論 | 1 | 1.0 | 1・2 | 秋AB | 木4 | 澤田 浩子, 石田 尊, 今田 水穂 | 人間言語の特徴とはどのようなものなのかという問題を念頭に置きながら、科学的言語研究のための歴史的背景、方法論、具体的分析方法などについて学ぶ。 | 対面 |
| AE53B41 | 日本語教育概論 | 1 | 1.0 | 1・2 | 秋AB | 木6 | 田中 祐輔 | 日本語教育について理論と実践の両輪から幅広く学ぶ科目である。世界の日本語学習ニーズ、共生社会における日本語教育の役割と日本語教師に求められる資質、日本語の教授法、語彙と文法の説明の方法、日本語教科書と使い方、国際交流と日本語教育の歩み、国家資格や役立つ検定試験の対策などについて解説する。 | 対面 |
| AE53B51 | 日本の文学概論 | 1 | 1.0 | 1・2 | 春AB | 火3 | 江口 真規 | 日本の文学が海外の文学との関わりの中でどのように形成され評価されてきたのか、主に英語圏を中心とする日本文学の翻訳・受容との比較を通して学ぶ。 | 対面 短期留学生の場合、人文・文化学群に所属している留学生に限る。 日本語能力中上級以上。日本の近現代文学を原文で読める能力が必要。 |
| AE53B61 | 現代日本社会概論 | 1 | 1.0 | 1・2 | 春AB | 金5 | 鈴木 伸隆 | この授業では現代日本社会が直面する課題に着目しながら、新しい社会の仕組みやつながりを創出するための考え方や視点を学ぶ。 | 対面 |

専門基礎科目(専門英語)

| 科目番号 | 科目名 | 授業方法 | 単位数 | 標準履修年次 | 実施学期 | 曜時限 | 担当教員 | 授業概要 | 備考 |
|---------|----------|------|-----|--------|------|-----|--------|---|--|
| AE54B11 | 専門英語A-I | 1 | 1.0 | 2 | 春AB | 火1 | 山本 祐規子 | 人、モノ、情報が国境を越えて絶えず飛び交う社会において、英語でのコミュニケーションは、グローバル社会で活躍する人材の前提条件になっているといっても過言ではない。本講義は、英語の基礎的な知識を応用し、実践的なコミュニケーションスキルを向上させることを目的としている。さまざまな英語媒体の教材を通じ、その概要をとらえ、理解し、自分なりの考えを英語で表現する演習を継続的に行うことによって、実践的な英語力の向上を目指す。 | 日本語・日本文化学類 正規生に限る。1クラス対象。 英語で授業。 対面 |
| AE54B21 | 専門英語A-II | 1 | 1.0 | 2 | 春AB | 火2 | 山本 祐規子 | 人、モノ、情報が国境を越えて絶えず飛び交う社会において、英語でのコミュニケーションは、グローバル社会で活躍する人材の前提条件になっているといっても過言ではない。本講義は、英語の基礎的な知識を応用し、実践的なコミュニケーションスキルを向上させることを目的としている。さまざまな英語媒体の教材を通じ、その概要をとらえ、理解し、自分なりの考えを英語で表現する演習を行うことにより、実践的な英語力の向上を目指す。 | 日本語・日本文化学類 正規生に限る。2クラス対象。 英語で授業。 対面 |
| AE54B31 | 専門英語B-I | 1 | 1.0 | 2 | 秋AB | 火6 | 安永 麻里絵 | この授業では、ヨーロッパから見た日本語・日本文化を大きなテーマとして、日蘭交流史をはじめ日本語・日本文化について英語で書かれた文献を読み解きながら、日本語・日本文化研究における英語の役割についての理解を深めます。また、これと並行して実践的なアカデミック・イングリッシュの表現を学びます。 | 日本語・日本文化学類 正規生に限る。1クラス対象。 オンライン(同時双方向型) オンデマンド型も併用。 |

| 科目番号 | 科目名 | 授業方法 | 単位数 | 標準履修年次 | 実施学期 | 曜時限 | 担当教員 | 授業概要 | 備考 |
|---------|----------|------|-----|--------|------|-----|--------|---|--|
| AE54B41 | 専門英語B-II | 1 | 1.0 | 2 | 秋AB | 金6 | 安永 麻里絵 | この授業では、ヨーロッパから見た日本語・日本文化を大きなテーマとして、日蘭交流史をはじめ日本語・日本文化について英語で書かれた文献を読み解きながら、日本語・日本文化研究における英語の役割についての理解を深めます。また、これと並行して実践的なアカデミック・イングリッシュの表現を学びます。 | 日本語・日本文化学類正規生に限る。2クラス対象。 オンライン(同時双方向型) オンデマンド型も併用。 |
| AE54B51 | 専門英語C-I | 1 | 1.0 | 3 | 春AB | 金2 | 渡部 宏樹 | 日系アメリカ人の歴史を文献と視聴覚教材を利用して学ぶことで、日本語・日本文化学類での専門教育に必要な高度な英語力を身につける。またデジタル・ツールを英語学習に取り入れる方法を学ぶ。なお本学の規定でTOEIC® IPテストを受検することが単位認定の要件となる。 | 日本語・日本文化学類正規生に限る。1クラス対象。 オンライン(オンデマンド型) |
| AE54B61 | 専門英語C-II | 1 | 1.0 | 3 | 春AB | 金1 | 渡部 宏樹 | 日系アメリカ人の歴史を文献と視聴覚教材を利用して学ぶことで、日本語・日本文化学類での専門教育に必要な高度な英語力を身につける。またデジタル・ツールを英語学習に取り入れる方法を学ぶ。なお本学の規定でTOEIC® IPテストを受検することが単位認定の要件となる。 | 日本語・日本文化学類正規生に限る。2クラス対象。 オンライン(オンデマンド型) |

専門基礎科目(実践力養成)

| 科目番号 | 科目名 | 授業方法 | 単位数 | 標準履修年次 | 実施学期 | 曜時限 | 担当教員 | 授業概要 | 備考 |
|---------|---------------|------|-----|--------|------|------|-------------|--|---|
| AE55A12 | 日本語教育学特別演習I | 2 | 1.0 | 1 - 4 | | | | 登録日本語教員養成課程のコアカリキュラムに準拠し、日本語教員試験、日本語教育能力検定試験に対応可能な実践的な知識を身につけることを目指す。 | 2026年度開講せず。 対面 実務経験教員履修登録者が多い場合、人数制限を行う場合もある。 |
| AE55A22 | 日本語教育学特別演習II | 2 | 1.0 | 1 - 4 | 春C | 火3,4 | 三好 優花 | 登録日本語教員養成課程のコアカリキュラムに準拠し、日本語教員試験、日本語教育能力検定試験に対応可能な実践的な知識を身につけることを目指す。 | 対面 実務経験教員履修登録者が多い場合、人数制限を行う場合もある。 |
| AE55A32 | 日本語教育学特別演習III | 2 | 1.0 | 1 - 4 | | | | 登録日本語教員養成課程のコアカリキュラムに準拠し、日本語教員試験、日本語教育能力検定試験に対応可能な実践的な知識を身につけることを目指す。 | 2026年度開講せず。 対面 実務経験教員履修登録者が多い場合、人数制限を行う場合もある。 |
| AE55A42 | 日本語教育学特別演習IV | 2 | 1.0 | 1 - 4 | | | | 登録日本語教員養成課程のコアカリキュラムに準拠し、日本語教員試験、日本語教育能力検定試験に対応可能な実践的な知識を身につけることを目指す。 | 2026年度開講せず。 実務経験教員履修登録者が多い場合、人数制限を行う場合もある。 |
| AE55B13 | 海外語学研修I | 3 | 2.0 | 1 - 4 | 通年 | 応談 | 日本語・日本文化学類長 | 海外で実施される語学研修に参加し、外国語運用能力と異文化適応能力を育成する。ただし、対象となる語学研修は、学類で定める所定の基準を満たすもののみとする。 | 日本語・日本文化学類正規生に限る。履修にあたっては担当教員との事前相談を要する。 |
| AE55B23 | 海外語学研修II | 3 | 2.0 | 1 - 4 | 通年 | 応談 | 日本語・日本文化学類長 | 海外で実施される語学研修に参加し、外国語運用能力と異文化適応能力を育成する。ただし、対象となる語学研修は、学類で定める所定の基準を満たすもののみとする。 | 日本語・日本文化学類正規生に限る。履修にあたっては担当教員との事前相談を要する。 |
| AE55B33 | 海外語学研修III | 3 | 3.0 | 1 - 4 | 通年 | 応談 | 日本語・日本文化学類長 | 海外で実施される語学研修に参加し、外国語運用能力と異文化適応能力を育成する。ただし、対象となる語学研修は、学類で定める所定の基準を満たすもののみとする。 | 日本語・日本文化学類正規生に限る。履修にあたっては担当教員との事前相談を要する。 |
| AE55B43 | 海外語学研修IV | 3 | 3.0 | 1 - 4 | 通年 | 応談 | 日本語・日本文化学類長 | 海外で実施される語学研修に参加し、外国語運用能力と異文化適応能力を育成する。ただし、対象となる語学研修は、学類で定める所定の基準を満たすもののみとする。 | 日本語・日本文化学類正規生に限る。履修にあたっては担当教員との事前相談を要する。 |

専門基礎科目(学際)

| 科目番号 | 科目名 | 授業方法 | 単位数 | 標準履修年次 | 実施学期 | 曜時限 | 担当教員 | 授業概要 | 備考 |
|---------|-------------|------|-----|--------|------|------|-------|---|----------------------------------|
| AE56A11 | 共生のための社会言語学 | 1 | 1.0 | 1 | 秋AB | 火2 | 澤田 浩子 | 多文化社会において生じる「ことば」に関する課題を取り上げながら、社会言語学の基礎的知見を学ぶとともに、ステレオタイプやジェンダーの問題を通して共生社会のあり方を考える。 | オンライン(オンデマンド型) 専門導入科目(事前登録対象) |
| AE56A21 | 共生のための日本語教育 | 1 | 1.0 | 1 | 春A | 木5,6 | 田中 祐輔 | 外国人受け入れが本格化する日本社会における外国人との共生に関して、日本語・コミュニケーションという観点から状況を捉え考える力を育成する。また、外国人日本語学習者に対する誤解について、言語学や第二言語習得研究の成果を元に再考し、多様な日本語話者の存在と日本語教育に関する理解を深める。 | オンライン(オンデマンド型) 専門導入科目(事前登録対象) |
| AE56A31 | 共生のための人類学 | 1 | 1.0 | 1 | 春BC | 火1 | 鈴木 伸隆 | 文化の異なる人々との共生を考える上で、文化的多様性の尊重は重要である。この授業では、文化相対主義、ジェンダー、コミュニティ、エスニシティ、ネーション、アイデンティティ、オリエンタリズム、寛容さといった基本的な概念を人類学的視点から分析することで、未来に向けた共生のあり方を理解する。 | オンライン(オンデマンド型) 専門導入科目(事前登録対象) |
| AE56A41 | 共生のための歴史学 | 1 | 1.0 | 1 | 春BC | 金3 | 朴 宣美 | 近現代日本における多文化社会の形成と変遷について歴史学の視点から考察する。 | オンライン(オンデマンド型) 専門導入科目(事前登録対象) |

| 科目番号 | 科目名 | 授業方法 | 単位数 | 標準履修年次 | 実施学期 | 曜時限 | 担当教員 | 授業概要 | 備考 |
|---------|---------|------|-----|--------|------|-----|-------------|---|----------------------------------|
| AE56A61 | 日本文学と文化 | 1 | 1.0 | 1 | 秋AB | 火1 | 江口 真規, 石田 尊 | この授業では、人文学の中で日本文学と文化の研究がどのように位置づけられるのかを概説する。文学作品や文化事象を考察するための基本的な研究手法や最新の研究動向を踏まえ、内外の視点を交えて批判的に分析する方法の修得を目指す。 | オンライン(オンデマンド型) 専門導入科目(事前登録対象) |

専門科目(日本語)

| 科目番号 | 科目名 | 授業方法 | 単位数 | 標準履修年次 | 実施学期 | 曜時限 | 担当教員 | 授業概要 | 備考 |
|---------|-------------|------|-----|--------|------|-----|-------|---|--|
| AE13A11 | 日本語の音声・音韻 | 1 | 1.0 | 2 | 秋C | 集中 | 金 瑜眞 | 現代日本語の音声の特徴に関する基礎的な知識を身に付ける。具体的には、話し言葉の語形、日本語学習者の音声の特徴、アクセント、イントネーション、子音、母音などについて観察・分析する能力を養う。 | オンライン(同時双方向型) |
| AE13A12 | 日本語の音声・音韻演習 | 2 | 1.0 | 3・4 | | | | 「日本語の音声・音韻」で得られた知見を発展させ、ガ行鼻音、オノマトペ、外来語の表記、アクセントの機能、プロソディ等について考察する。 | 2026年度開講せず。 |
| AE13A21 | 日本語の文法I | 1 | 1.0 | 2 | 春AB | 月2 | 石田 尊 | 文の単位を中心にした文法を考える。格、ヴォイス、アスペクト、テンス、モダリティ等の問題を取り上げ、日本語の文を文法的に観察し、分析する基礎的能力を養う。 | 対面 |
| AE13A31 | 日本語の文法II | 1 | 1.0 | 3・4 | 春AB | 火5 | 石田 尊 | 文の単位を中心にした文法を考える。語順、主語、他動性等の問題を取り上げ、日本語の文を構造的に観察し、分析する能力を養う。 | 西暦偶数年度開講。 対面 |
| AE13A32 | 日本語の文法演習I | 2 | 1.0 | 2 | 秋AB | 月2 | 石田 尊 | 日本語の文法を対象とする論文をいくつか取り上げ、それらの議論の方法や手順、主張などを読み解いていくことで、日本語の文法を対象とする言語学的な研究の実践について理解を深める。 | 対面 |
| AE13A61 | 日本語の語彙 | 1 | 1.0 | 2 | 春AB | 木3 | 今田 水穂 | 日本語の語彙の意味的側面と文法的側面、それに基づく語彙の体系について理解を深める。 | 西暦偶数年度開講。 対面 |
| AE13A62 | 日本語の語彙演習 | 2 | 1.0 | 2 | 秋AB | 木3 | 今田 水穂 | 動詞を中心に様々な側面からの語彙の分析に関する文献を読み、その分析方法を検討することによって、語彙分析の方法を学ぶ。 | 西暦偶数年度開講。 対面 |
| AE13A71 | 日本語コーパス分析 | 1 | 1.0 | 2 | | | | 日本語研究においてコーパスがどのように位置づけられ、どのように用いることができるのか、研究事例をもとに考える。 | 西暦奇数年度開講。 対面 自然言語をデータとして活用する手法を学ぶ。 |
| AE13A72 | 日本語コーパス分析演習 | 2 | 1.0 | 2 | | | | コロケーションや語彙など、具体的なトピックに基づき、コーパスを用いて用例を収集し、分析を行う | 西暦奇数年度開講。 対面 自然言語をデータとして活用する手法を学ぶ。 |
| AE13A81 | 日本語の談話 | 1 | 1.0 | 2 | 春AB | 月6 | 澤田 浩子 | 談話分析に関する知見を学び、日本語のコミュニケーションにおける産出と理解の両面について理解を深める。 | 対面 |
| AE13A82 | 日本語の談話演習 | 2 | 1.0 | 2 | 秋AB | 月6 | 澤田 浩子 | 談話分析に関する知見をもとに、日本語のコミュニケーションを対象にデータを収集し、分析する力を養う。 | 自然談話をデータとして活用する手法を学ぶ。 対面 |
| AE13A91 | 日本語の語用論 | 1 | 1.0 | 2 | 春AB | 火4 | 小野 正樹 | 語用論の観点から注目すべき言語現象を、慣習的な日本語の用例を用いて解説し、語用論の課題に対して、コミュニケーション理論の側からのアプローチを試みる。コミュニケーションの諸理論の概説を通して、発話の目的とは何かを解き明かしていく。 | 対面 |
| AE13A92 | 日本語の語用論演習 | 2 | 1.0 | 2 | 秋AB | 火4 | 小野 正樹 | 日本語を中心として、発話機能の観点から、どのような発話機能を必要として、日本語の教科書ではどのように扱われているかを見ながら、我々は、日常的にこうした発話を行う場合に、どのような点に留意する必要があるかを、コーパスや調査に基づき、実証的に考える。 | 対面 |
| AE13B11 | 日本語音韻史 | 1 | 1.0 | 2 | | | | 日本語音韻体系の歴史的变化の様子を検討していく。上代日本語から現代日本語に至る流れの中で、日本語の音韻体系にどのようなことが起こったのかを、具体的な資料などを確認しながら考察する。 | 西暦奇数年度開講。 対面 |
| AE13B21 | 日本語文法史 | 1 | 1.0 | 2 | 春AB | 月5 | 石田 尊 | 日本語文法体系の歴史的变化の様子を検討していく。上代日本語から現代日本語に至る流れの中で、日本語の文法体系にどのようなことが起こったのかを、具体的な資料などを確認しながら考察する。 | 西暦偶数年度開講。 対面 |
| AE13B31 | 日本語方言論 | 1 | 1.0 | 3・4 | | | | これまでの日本語方言研究においてどのような調査がなされ、明らかにされてきたのかを概観しつつ、特に方言文法の問題を中心に考察を行っていく。 | 西暦奇数年度開講。 対面 |

| 科目番号 | 科目名 | 授業方法 | 単位数 | 標準履修年次 | 実施学期 | 曜時間 | 担当教員 | 授業概要 | 備考 |
|---------|-----------|------|-----|--------|------|-----|-------|---|-------------------|
| AE13B51 | 世界の言語と日本語 | 1 | 1.0 | 3・4 | 春AB | 火2 | 日高 晋介 | この授業では、言語類型論における具体的なトピックを取り上げながら、日本語を世界の言語と比較・対照します。語順、文法構造などの観点から、日本語がどのような特徴を持つ言語であるかを相対的に理解することを目指します。さらに、日本語の特徴を他言語と比較することで、言語の普遍性や多様性についても考察します。この過程を通じて、日本語話者としての視点を広げ、日本語に対する深い理解と新たな気づきを得ることを目指します。 | 対面 |
| AE13B61 | 言語研究の方法 | 1 | 1.0 | 2 | 秋AB | 金2 | 茂木 俊伸 | (卒業論文等で)「言語を研究する」とはどういうことかを具体的にイメージできるよう、方法論の側面から支援する授業です。皆さんがこれまで初年次教育やレポート執筆等の機会に学んできた知識・技術を再構築しながら、日本語学(現代日本語)分野のさまざまな事例をもとに、アイディアから「研究」にたどり着くための考え方や方法について学びます。 | オンライン(オンデマンド型) |
| AE13B62 | 言語研究の方法演習 | 2 | 1.0 | 3・4 | | | | 言語構造の普遍のおよび個別的側面について理論的に考えるとともに、言語構造に関する議論を具体的なデータからどのように組立てるかを学ぶ。 | 2026年度開講せず。 |
| AE13B71 | 言語と文化I | 1 | 1.0 | 2 | | | | 文化的な影響が見られる言語表現について考察する。具体的に、積極的/消極的、絶対的/相対的、開放的/閉鎖的などの文化的特徴が言語表現の方向性(上から下/下から上、左から右/右から左、内から外/外から内、全体から部分/部分から全体、原因から結果/結果から原因、動きから停止/停止から動きなど)にどう現れるのかを調べる。 | 2026年度開講せず。 対面 |
| AE13B72 | 言語と文化演習I | 2 | 1.0 | 2 | | | | 広告言語、放送(ジャンル別)言語の特徴・機能を調査する。 | 2026年度開講せず。 対面 |
| AE13B81 | 言語と文化II | 1 | 1.0 | 3・4 | | | | 辞書での多義語を対象として、意味派生の方向を分析する。分析結果を他言語と比較し、個別言語の特徴を明らかにする。なお、重義の語彙や表現の曖昧さを解決する方法を考える。 | 2026年度開講せず。 対面 |
| AE13B82 | 言語と文化演習II | 2 | 1.0 | 3・4 | | | | 語彙の目的別分類法、分類・提示基準について調査し、分類を実践する。特に、語種別(例えばカタカナ語と非カタカナ語)の使用目的・効果などについて考察する。 | 2026年度開講せず。 対面 |
| AE13B91 | 言語と論理 | 1 | 1.0 | 3・4 | 秋AB | 月4 | 今田 水穂 | 言語の形式化の基礎となる集合および命題論理、述語論理、様相論理などの論理を学び、これらと言語との関わりについて考察する。 | 西暦偶数年度開講。 対面 |

専門科目(多文化共生・日本語教育)

| 科目番号 | 科目名 | 授業方法 | 単位数 | 標準履修年次 | 実施学期 | 曜時間 | 担当教員 | 授業概要 | 備考 |
|---------|----------------|------|-----|--------|---------|-----|--------|---|---------------------------------------|
| AE13E11 | 日本語教育文法論 | 1 | 1.0 | 2 | 春AB | 月1 | 稗田 奈津江 | 日本語記述文法と日本語教育文法の違いを理解し、日本語教育の理論および実践の両面から基礎的能力を養う。 | オンライン(同時双方向型) |
| AE13E21 | 日本語技能指導論 | 1 | 1.0 | 3・4 | 秋AB | 月1 | 稗田 奈津江 | 「話す」「聞く」「読む」「書く」の四技能の指導に関して、日本語教育の理論および実践の両面から基礎的能力を養う。 | オンライン(同時双方向型) |
| AE13E31 | 第二言語習得論 | 1 | 1.0 | 3・4 | 秋C春季休業中 | 集中 | 金 瑜眞 | 第二言語習得研究分野における基礎的なトピックをとりあげ、日本語教育への応用について考える。 | オンライン(同時双方向型) |
| AE13E41 | 外国人児童生徒教育論 | 1 | 1.0 | 2 - 4 | 春B | 集中 | 澤田 浩子 | 日本における外国人児童生徒教育をめぐる諸問題について、異文化接触、第二言語習得、日本語教育学、学校教育、地域社会での実践等、多角的な視野から取り上げる。本講義を受講することで受講生は、将来どのような分野に進んでも、外国人児童生徒教育に関わる支援のリーダーシップを取れるような考え方を身につけることができる。 | 6/6, 6/20 対面 |
| AE13E51 | 異文化間心理学 | 1 | 1.0 | 2 - 4 | 夏季休業中 | 集中 | 田中 共子 | 異文化間心理学の着想と知見を紹介し、その教育応用について講義する。AUC-GS学習モデルを用いた心理教育的セッションを体験的に理解しながら、教材作成に取り入れる方法を考える。実証研究の論文を読み、後続研究への展開を考える。 | 短期留学生は、日本語の講義の理解と討論・発表が可能な方に限る。 対面 |
| AE13E61 | 日本語教育心理学 | 1 | 1.0 | 3・4 | 春季休業中 | 集中 | 福田 倫子 | 日本語を含む言語学習および教育に関わる心理(認知面・情意面)の基本的な概念を学ぶ。自身の言語学習を振り返りつつ、理論と経験を結びつけながら理解する。言語の学習や教育での応用についても考える。 | 対面 |
| AE13E62 | 日本語教育心理学演習 | 2 | 1.0 | 3・4 | | | | 日本語教育における心理学的研究の考え方や手法を学び、実際にデータをとって分析・考察を行う。その際、研究は小グループで行う。 | 2026年度開講せず。 |
| AE13E71 | 海外の日本語教育と日本学 | 1 | 1.0 | 3・4 | 春AB | 火3 | 小野 正樹 | 日本語教育を、自国文化普及政策のソフトパワーとして捉え、日本語教育政策について、現状の課題から政策までを講義する。 | 対面 |
| AE13E72 | 海外の日本語教育と日本学演習 | 2 | 1.0 | 3・4 | 秋AB | 火3 | 小野 正樹 | 日本語教育を、自国文化普及政策のソフトパワーとして捉え、日本語政策について、現状の課題から政策までの課題を各自が設定した課題を参加者で議論し、理解を深める。 | 対面 |

| 科目番号 | 科目名 | 授業方法 | 単位数 | 標準履修年次 | 実施学期 | 曜時限 | 担当教員 | 授業概要 | 備考 |
|---------|------------|------|-----|--------|------|-----|-------|--|----|
| AE13E91 | 多文化の中の日本 | 1 | 1.0 | 3・4 | 春AB | 木3 | 鈴木 伸隆 | グローバル化する日本社会の異文化接触・交流がもたらす葛藤や対立を、国際共通語としての英語、ユネスコ世界遺産、国際児のアイデンティティの3つから論じることで、錯綜する日本の多文化状況を理解する。 | 対面 |
| AE13E92 | 多文化の中の日本演習 | 2 | 1.0 | 3・4 | 秋AB | 木3 | 鈴木 伸隆 | 『アフーマティブ・アクション』（南川文里著、中公新書）を講読し、平等実現のために制度導入の是非を討議する。 | 対面 |
| AE13F21 | 日本語教育史 | 1 | 1.0 | 2 | 春AB | 木4 | 田中 祐輔 | 現代に至るまでの日本語教育の歴史を、使用された教科書や活動した日本語教育関係者、関連機関、主な出来事の視点から概観するとともに、そこから浮かび上がる世界史や日本史との関わり、そして、日本語教育の課題と未来への展望について学ぶための科目である。本科目では、日本語教育の歴史を振り返りながら、現在の日本語教育と共生社会への示唆と、受講生自身の今後の実践と研究に役立つ知見、そして、日本語教育の将来ビジョン策定に資する指針を得ることを目標とする。 | 対面 |
| AE13F22 | 日本語教育史演習 | 2 | 1.0 | 2 | 秋AB | 水5 | 田中 祐輔 | 社会調査と歴史調査の手法を学びながら、現代に至るまでの日本語教育の歴史と現況を概観するとともに、そこから浮かび上がる世界史や日本史、現代社会、災害と日本語教育との関わり、現在の日本語教育に引き継がれた課題と展望について学ぶための科目である。本科目では、受講生自身が社会調査と歴史調査の手法を学びながら日本語教育の状況と問題を調べ、共生社会実現に向けた示唆と、受講生自身の今後の活動と学修に役立つ知見、そして、日本語教育の将来ビジョン策定に資する指針を得ることを目標とする。 | 対面 |

専門科目（日本文化）

| 科目番号 | 科目名 | 授業方法 | 単位数 | 標準履修年次 | 実施学期 | 曜時限 | 担当教員 | 授業概要 | 備考 |
|---------|--------------|------|-----|--------|----------|-----|-------|--|--|
| AE13G11 | 日本の政治と社会 | 1 | 1.0 | 3・4 | 春AB | 金3 | 長尾 宗典 | 近代日本の政治と社会について、いくつかの重要なトピックに即して講義する。 | 対面 比較文化学類生は、AC60E71と本科目を同時に卒業に必要な単位に含めることができない。 |
| AE13G12 | 日本の政治と社会演習 | 2 | 1.0 | 3・4 | 秋AB | 金3 | 長尾 宗典 | 近代日本の政治と社会に関する文献を講読し、歴史的な視点から日本の社会を捉える方法を身につける。 | 対面 |
| AE13G21 | 東洋の歴史と文化 | 1 | 1.0 | 2 | 秋AB | 水2 | 朴 宣美 | 現代韓国の歴史と文化を考察する。南北分断、民主化運動、民主化以後の国民意識などを取り上げる。 | 対面（オンライン併用型） 対面とオンデマンド型の組み合わせ |
| AE13G31 | 近代日本の文化交流 | 1 | 1.0 | 3・4 | 春AB | 木2 | 朴 宣美 | 社会文化史、ジェンダー史の視点から、「近代日本」における人々の移動・交流・変化する意識について考察する。 | 対面 |
| AE13G32 | 近代日本の文化交流演習 | 2 | 1.0 | 3・4 | 秋AB | 木2 | 朴 宣美 | 近現代日本における戦争観、歴史教育問題をテーマにして議論し、テキスト批判トレーニングを行う。 | 対面 |
| AE13G41 | 日本の宗教と芸能 | 1 | 1.0 | 3・4 | 秋A 秋B | 木5 | 山澤 学 | 日本近世～近現代における宗教・芸能・社会について、具体的な事例を取り上げながら学修する。 | 対面 実務経験教員 |
| AE13G51 | 日本文学の歴史 | 1 | 1.0 | 2 | 秋学期 | 応談 | | 各時代の文献および注釈書を読み解きながら、日本文学の特徴とその変遷を概観する。 | 開講日程調整中 対面 |
| AE13G72 | 日本文学とその特質演習Ⅰ | 2 | 1.0 | 3・4 | | | | 日本の古典文学作品にみられる表現を読み解くことにより、その特質を演習形式によって実践的に学ぶ。 | 2026年度開講せず。 対面 |
| AE13G91 | 国語科教育と文学 | 1 | 1.0 | 2 - 4 | | | | 中等教育の国語科でよく扱われる文学教材を中心に、その内容や授業方法について考察する。教員免許を取得して実際に国語科教員になることを熱望する人材のみ受講していただきたい。 | 2026年度開講せず。 対面 |
| AE13G92 | 国語科教育と文学演習 | 2 | 1.0 | 2 - 4 | | | | 中等教育の国語科でよく扱われる文学教材を中心に、その内容や授業方法について考察する。教員免許を取得して実際に国語科教員になることを熱望する人材のみ受講していただきたい。 | 2026年度開講せず。 対面 |
| AE13H11 | 中国文学と日本文学 | 1 | 1.0 | 2 | | | | 日本の古典文学作品にみられる表現が、いかに中国文学の影響のもとに成り立っているのか、和漢の古典籍や注釈書を読み解くことによって概観する。 | 2026年度開講せず。 対面 |
| AE13H12 | 中国文学と日本文学演習Ⅰ | 2 | 1.0 | 3・4 | 秋学期 | 応談 | | 日本が独自の文字文化を持たないなか、どのように漢字や中国文学を受容して自ら文字表現したのか、和漢の古典籍を比較しながら演習形式によって実践的に学ぶ。 | 開講日程調整中 対面 |

| 科目番号 | 科目名 | 授業方法 | 単位数 | 標準履修年次 | 実施学期 | 曜時限 | 担当教員 | 授業概要 | 備考 |
|---------|---------------|------|-----|--------|------|-----|-------|--|---|
| AE13H91 | 世界文学と日本文学 | 1 | 1.0 | 2 | 春AB | 金3 | 江口 真規 | アニマル・スタディーズの理論を概観したうえで、クッツェーやカフカ、宮沢賢治などの文学作品を講読し、文学・文化を人と動物の関係から考察する。 | 対面 短期留学生の場合、人文・文化学群に所属している留学生に限る。 |
| AE13H92 | 世界文学と日本文学演習I | 2 | 1.0 | 2 | 秋AB | 火2 | 江口 真規 | 日本語で書かれた短編小説の精読を通して、文学作品の分析と研究方法を演習形式で学ぶ。特に作品に描かれた動物の表象に着目し、海外文学との比較から考察を行う。 | 対面 短期留学生の場合、日本語・日本文化学類に所属している留学生に限る。日本語能力中上級以上。日本の近現代文学を原文で読める能力が必要。 |
| AE13J12 | 世界文学と日本文学演習II | 2 | 1.0 | 3・4 | 春AB | 金4 | 江口 真規 | 具体的な作品の分析とテキストの講読・発表を通して、文学・文化の研究手法と文学理論（ジェンダー批評やポストコロニアル批評等）の歴史を学ぶ。 | 西暦偶数年度開講。 対面 |
| AE13M11 | 日本文化特講I | 1 | 1.0 | 2 - 4 | 秋AB | 金1 | 鈴木 伸隆 | 近年、観光はまちづくりや地域振興にソフトパワーとして大きな役割を果たしている。自衛隊の基地ですら、観光資源として利用されている現状がある。この授業では、観光という文脈の中で、地域固有の文化がどのように資源として発見され、商品化されていくかを、資源となる対象（自然、歴史、景観、伝統芸能）、その担い手（主体）、資源化される過程に注目して、論じる。 | 対面 |

専門科目(国際・協働)

| 科目番号 | 科目名 | 授業方法 | 単位数 | 標準履修年次 | 実施学期 | 曜時限 | 担当教員 | 授業概要 | 備考 |
|---------|----------------|------|-----|--------|-------------|------------|--------------------|---|--|
| AE14A42 | 日本語・日本文化共同研究IV | 2 | 1.0 | 2 - 4 | 秋B | 集中 | 豊田 紘子 | 日本の地域社会を理解するうえで基本となるマチとムラについて、フィールドワーク(巡検)を行う。2回実施する巡検では、教員が現地を案内・解説するとともに、留学生と日本人学生からなるグループが事前に調査した内容を発表し、歴史的・文化的な景観やそこに展開する生活文化の特色について考察する。 | 交通費・見学入館料・食事代などは自己負担とする。履修希望者多数の場合は人数制限を行う(25名程度)。事前学習、現地見学合わせて土日3日間の予定で開講する。 対面 (オンライン併用型) G科目 |
| AE14B13 | 言語教育対話実習I | 3 | 1.0 | 2 - 4 | 春AB | 火4 応談 | 岩崎 拓也 | 日本人学生および留学生による未習外国語の模擬授業および意見交換を通して、指導技術の向上を目指すとともに、学習者の立場を理解し、学習がどのようにして起こるのかに対する理解を深める。 | 受講者数多数の場合は不可となる場合がある。また、基本的には通年での履修を認めない。 対面 G科目 |
| AE14B23 | 言語教育対話実習II | 3 | 1.0 | 2 - 4 | 秋AB | 火4 応談 | 岩崎 拓也 | 日本人学生および留学生による未習外国語の模擬授業および意見交換を通して、指導技術の向上を目指すとともに、学習者の立場を理解し、学習がどのようにして起こるのかに対する理解を深める。 | 受講者数多数の場合は不可となる場合がある。また、基本的には通年での履修を認めない。 対面 G科目 |
| AE14C23 | 日本語教育国際研修 | 3 | 3.0 | 2 - 4 | 秋AB 秋C | 応談 集中 | 渡部 宏樹, 澤田 浩子 | マレーシアの中等教育機関及びマレーシア工科大学にて、3週間、日本語を教える。 | 事前に説明会を実施するので履修希望者は必ず出席すること。人数制限あり。インターンシップ科目。 対面 CDP 実務経験教員 |
| AE14C73 | 日本語教育実習A | 3 | 3.0 | 2 - 4 | 春AB 春C | 水4,5 随時 | 田中 祐輔, 日高 晋介, 鏡 耀子 | カリキュラム作成、教案・教材教具作成、模擬実習、教壇に立つての本実習等を通して、日本語教育の方法論と技術を学ぶ。 | 対面 実務経験教員 受講生数次第で履修を制限することがある。 |
| AE14C83 | 日本語教育実習B | 3 | 3.0 | 2 - 4 | 春AB 春C | 水4,5 随時 | 澤田 浩子, 鏡 耀子 | 高等学校に在籍する外国にルーツのある生徒への教育実践(カリキュラム作成、教案・教材教具作成、模擬実習、教壇実習等)を通して、日本語教育の方法論と技術を学ぶ。 | 対面 実務経験教員 受講生数次第で履修を制限することがある。 |
| AE14E13 | 日本語・日本文化国際研修I | 3 | 3.0 | 2 - 4 | | | | スロベニア・リュブリャナ大学で2週間の異文化理解プログラムを行う。(1)日本の言語・文化・社会に関する研究発表を行い、現地の大学生と学術交流を行う。(2)民族学博物館、国立美術館、現地小中学校等の見学。(3)スロベニア語の基本的な特徴を理解し、日常会話を習得する。 | 事前に説明会を実施するので履修希望者は必ず出席すること。人数制限あり。 西暦奇数年度開講。 対面 G科目 実務経験教員 |
| AE14E23 | 日本語・日本文化国際研修II | 3 | 3.0 | 2 - 4 | 秋C 春季休業中 | 水5,6 集中 | 澤田 浩子 | スロベニア・リュブリャナ大学で2週間の異文化理解プログラムを行う。(1)日本の言語・文化・社会に関する研究発表を行い、現地の大学生と学術交流を行う。(2)民族学博物館、国立美術館、現地小中学校等の見学。(3)スロベニア語の基本的な特徴を理解し、日常会話を習得する。 | 事前に説明会を実施するので履修希望者は必ず出席すること。人数制限あり。 西暦偶数年度開講。 対面 G科目 実務経験教員 |

| 科目番号 | 科目名 | 授業方法 | 単位数 | 標準履修年次 | 実施学期 | 曜時限 | 担当教員 | 授業概要 | 備考 |
|---------|------------------|------|-----|--------|-----------------|------------|-------|--|---|
| AE14E33 | 日本語・日本文化国際研修III | 3 | 3.0 | 2 - 4 | 春B 秋A | 水2 集中 | 朴 宣美 | 日韓の歴史問題への理解を深めるため韓国で実習を行う。 | 人数制限あり。事前に説明会を実施するので履修希望者は必ず出席すること。 対面 G科目 |
| AE14F43 | 国際・協働インターンシップI | 3 | 3.0 | 2 - 4 | 通年 | 応談 | 澤田 浩子 | 国内外で行う多文化共生に関わる社会的活動(ボランティアや企業研修)に対して、インターンシップとして単位を付与する。 | 履修にあたっては担当教員との相談を要する。インターンシップ科目。 対面 CDP 実務経験教員 |
| AE14F53 | 国際・協働インターンシップII | 3 | 3.0 | 2 - 4 | 通年 | 応談 | 澤田 浩子 | 国内外で行う多文化共生に関わる社会的活動(ボランティアや企業研修)に対して、インターンシップとして単位を付与する。 | 履修にあたっては担当教員との相談を要する。インターンシップ科目。 対面 CDP 実務経験教員 |
| AE14G13 | 日本語方言研究フィールド実習I | 3 | 3.0 | 2 - 4 | | | | 特定の地点でのフィールドワークを中心とした実習科目である。春ABの期間に調査対象となる地域の言語的な状況を確認・検討し、また言語調査に必要な基本的な知識やスキルを学ぶ。夏季休業中には現地での実習を行う。秋ABの期間には、現地調査の結果の整理と報告の作成を行う。また併せて他の年度の調査結果との比較検討を行う。 | 人数制限あり。 西暦奇数年度開講。 対面 |
| AE14G23 | 日本語方言研究フィールド実習II | 3 | 3.0 | 2 - 4 | 春AB秋AB 夏季休業中 | 金6 集中 | 石田 尊 | 特定の地点でのフィールドワークを中心とした実習科目である。春ABの期間に調査対象となる地域の言語的な状況を確認・検討し、また言語調査に必要な基本的な知識やスキルを学ぶ。夏季休業中には現地での実習を行う。秋ABの期間には、現地調査の結果の整理と報告の作成を行う。また併せて他の年度の調査結果との比較検討を行う。 | 人数制限あり。 西暦偶数年度開講。 対面 |
| AE14G33 | 日本語談話研究フィールド実習I | 3 | 3.0 | 2 - 4 | | | | 日本語における言語コミュニケーションについてフィールドワーク調査を行い、レポートを作成する。現地での滞在調査を通じて、言語と人間・文化・社会との関わりを学ぶ。 | 事前に説明会を実施するので履修希望者は必ず出席すること。人数制限あり。 西暦奇数年度開講。 対面 |
| AE14G43 | 日本語談話研究フィールド実習II | 3 | 3.0 | 2 - 4 | 春C 夏季休業中 | 月5,6 集中 | 澤田 浩子 | 日本語における言語コミュニケーションについてフィールドワーク調査を行い、レポートを作成する。現地での滞在調査を通じて、言語と人間・文化・社会との関わりを学ぶ。 | 事前に説明会を実施するので履修希望者は必ず出席すること。人数制限あり。 西暦偶数年度開講。 対面 |
| AE14G53 | 日本文化研究フィールド実習I | 3 | 3.0 | 2 - 4 | | | | 今日、日本の地域社会を取り巻く「まちづくり」という現象は、観光という大きな流れと不可分に結びついている。この実習ではまちづくりに焦点を当て、特に現地での聞き取りからデータ収集し、レポートをまとめるという一連の作業を通して、フィールド調査の基礎を実践的に学ぶ。 | 4月下旬から5月上旬(予定)にかけて説明会を実施するので履修希望者は必ず出席すること。人数制限あり。 西暦奇数年度開講。 対面 |
| AE14G63 | 日本文化研究フィールド実習II | 3 | 3.0 | 2 - 4 | 春C 夏季休業中 | 木2,3 集中 | 鈴木 伸隆 | 今日、日本の地域社会を取り巻く「まちづくり」という現象は、観光という大きな流れと不可分に結びついている。この実習ではまちづくりに焦点を当て、特に現地での聞き取りからデータ収集し、レポートをまとめるという一連の作業を通して、フィールド調査の基礎を実践的に学ぶ。 | 5月初旬(予定)に説明会を実施するので履修希望者は必ず出席すること。人数制限あり。 西暦偶数年度開講。 対面 |
| AE14H12 | 外国人児童生徒支援研究I | 2 | 1.0 | 2 - 4 | 春C | 集中 | 澤田 浩子 | 茨城県の外国人児童生徒に対する日本語支援に関して、実践を念頭においた研究を行う。 | AE14H22の単位取得者は履修不可。 7/4, 7/18 対面(オンライン併用型) 実務経験教員 |
| AE14H22 | 外国人児童生徒支援研究II | 2 | 1.0 | 1 - 3 | 秋C | 集中 | 澤田 浩子 | 茨城県の外国人児童生徒に対する日本語支援に関して、実践を念頭においた研究を行う。 | AE14H12の単位取得者は履修不可。 1/30, 2/13 対面(オンライン併用型) 実務経験教員 |
| AE14H23 | 外国人児童生徒支援実習I | 3 | 3.0 | 2 - 4 | 通年 春季休業中 | 金7 随時 | 澤田 浩子 | 茨城県の外国人児童生徒に対する日本語支援に関して、インターネットを通じた日本語支援の実践を行う。 | 原則として「外国人児童生徒支援研究」を受講していることを履修の条件とする。 対面 実務経験教員 |
| AE14H33 | 外国人児童生徒支援実習II | 3 | 3.0 | 2 - 4 | 通年 春季休業中 | 金7 随時 | 澤田 浩子 | 茨城県の外国人児童生徒に対する日本語支援に関して、インターネットを通じた日本語支援の実践を行う。 | 原則として「外国人児童生徒支援研究」を受講していることを履修の条件とする。 対面 実務経験教員 |

| 科目番号 | 科目名 | 授業方法 | 単位数 | 標準履修年次 | 実施学期 | 曜時限 | 担当教員 | 授業概要 | 備考 |
|---------|---------------------|------|-----|--------|------|-----|-------|---|---|
| AE14H52 | 外国人児童生徒支援プロジェクト研究 | 2 | 1.0 | 3・4 | 春A | 集中 | 澤田 浩子 | 茨城県の外国人児童生徒に対する日本語支援のプロジェクトに参加しながら、プロジェクトの運営や地域との連携などコーディネーターとして活動するために、実践を念頭においた研究を行う。 | 原則として「外国人児童生徒支援研究」「外国人児童生徒支援実習」を受講していることを履修の条件とする。 4/18-19 対面 実務経験教員 |
| AE14H63 | 外国人児童生徒支援プロジェクト実習I | 3 | 3.0 | 3・4 | 通年 | 応談 | 澤田 浩子 | 茨城県の外国人児童生徒に対する日本語支援のプロジェクトに参加しながら、プロジェクトの運営や地域との連携などコーディネーターとしての実践を行う。 | 原則として「外国人児童生徒支援研究」「外国人児童生徒支援実習」「外国人児童生徒支援プロジェクト研究」を受講していることを履修の条件とする。 対面 実務経験教員 |
| AE14H73 | 外国人児童生徒支援プロジェクト実習II | 3 | 3.0 | 3・4 | 通年 | 応談 | 澤田 浩子 | 茨城県の外国人児童生徒に対する日本語支援のプロジェクトに参加しながら、プロジェクトの運営や地域との連携などコーディネーターとしての実践を行う。 | 原則として「外国人児童生徒支援研究」「外国人児童生徒支援実習」「外国人児童生徒支援プロジェクト研究」を受講していることを履修の条件とする。 対面 実務経験教員 |

専門科目 (Japan-Expertインターンシップ)

| 科目番号 | 科目名 | 授業方法 | 単位数 | 標準履修年次 | 実施学期 | 曜時限 | 担当教員 | 授業概要 | 備考 |
|---------|------------------------|------|-----|--------|------|-----|-------|--|--|
| AE18K13 | Japan-ExpertインターンシップI | 3 | 3.0 | 3・4 | 通年 | 応談 | 三好 優花 | 海外または国内で日本語教育実習・日本語教育に関連したインターンシップを行う。 カリキュラム作成、教案・教材教具作成、模擬実習、教壇に立つての本実習等を通して、日本語教育の方法論と技術を学ぶ。 | Japan-Expert日本語教師養成コース学生に限る。インターンシップ科目。 西暦偶数年度開講。 対面 実務経験教員 |
| AE18K23 | Japan-ExpertインターンシップII | 3 | 3.0 | 3・4 | | | | 海外または国内で日本語教育実習・日本語教育に関連したインターンシップを行う。 カリキュラム作成、教案・教材教具作成、模擬実習、教壇に立つての本実習等を通して、日本語教育の方法論と技術を学ぶ。 | Japan-Expert日本語教師養成コース学生に限る。インターンシップ科目。 西暦奇数年度開講。 対面 実務経験教員 |

卒業論文

| 科目番号 | 科目名 | 授業方法 | 単位数 | 標準履修年次 | 実施学期 | 曜時限 | 担当教員 | 授業概要 | 備考 |
|---------|----------|------|-----|--------|-------------|----------|----------------------------|--|--|
| AE10A12 | 総合演習導入I | 2 | 1.0 | 2 | 秋C | 随時 | 日本語・日本文化学類関係教員 | 卒業論文作成にむけて問題発見のための指導を行う。 | 対面 |
| AE10A22 | 総合演習導入II | 2 | 1.0 | 2 | 通年 | 随時 | 日本語・日本文化学類関係教員 | 卒業論文作成にむけて問題発見のための指導を行う。 | 留学または休学した学生対象の科目であり、履修にあたっては相談を要する。 対面 |
| AE10B12 | 総合演習I-a | 2 | 3.0 | 3 | 春AB 春ABC | 水6 随時 | 石田 尊, 今田 水穂 | 研究テーマごとにグループを編成し、複数教員による指導体制の中で、先行研究の調査・整理を行い、自身の研究テーマにおける研究方法の理解を図る。その後、教員とのチュートリアルを通して、卒業論文テーマレポートを作成する。 | 対面 |
| AE10B22 | 総合演習I-b | 2 | 3.0 | 3 | 春AB 春ABC | 水6 随時 | 小野 正樹, 澤田 浩子, 田中 祐輔, 三好 優花 | 研究テーマごとにグループを編成し、複数教員による指導体制の中で、先行研究の調査・整理を行い、自身の研究テーマにおける研究方法の理解を図る。その後、教員とのチュートリアルを通して、卒業論文テーマレポートを作成する。 | 対面 |
| AE10B32 | 総合演習I-c | 2 | 3.0 | 3 | 春AB 春ABC | 水6 随時 | 江口 真規 | 研究テーマごとにグループを編成し、複数教員による指導体制の中で、先行研究の調査・整理を行い、自身の研究テーマにおける研究方法の理解を図る。その後、教員とのチュートリアルを通して、卒業論文テーマレポートを作成する。 | 対面 |
| AE10B42 | 総合演習I-d | 2 | 3.0 | 3 | 春AB 春ABC | 水6 随時 | 鈴木 伸隆, 朴 宣美 | 研究テーマごとにグループを編成し、複数教員による指導体制の中で、先行研究の調査・整理を行い、自身の研究テーマにおける研究方法の理解を図る。その後、教員とのチュートリアルを通して、卒業論文テーマレポートを作成する。 | 対面 |
| AE10B92 | 総合演習III | 2 | 3.0 | 3 | 秋ABC | 随時 | 日本語・日本文化学類関係教員 | 研究テーマごとにグループを編成し、複数教員による指導体制の中で、先行研究の調査・整理を行い、自身の研究テーマにおける研究方法の理解を図る。その後、教員とのチュートリアルを通して、卒業論文テーマレポートを作成する。 | AE10B12/AE10B22/AE10B32/AE10B42に相当。 留学または休学した学生対象の科目であり、履修にあたっては相談を要する。 対面 |

| 科目番号 | 科目名 | 授業方法 | 単位数 | 標準履修年次 | 実施学期 | 曜時限 | 担当教員 | 授業概要 | 備考 |
|---------|-----------|------|-----|--------|-------------|----------|----------------------------|--|--|
| AE10C12 | 総合演習II-a | 2 | 3.0 | 3 | 秋AB 秋ABC | 水6 随時 | 石田 尊, 今田 水穂 | 研究テーマごとにグループを編成し、複数教員による指導体制の中で、リサーチクエストの明確化と、研究計画の立案に取り組む。その後、教員とのチュートリアルを通して、卒業論文調査票を作成し、それに基づき主指導教員・副指導教員を決定する。 | 対面 |
| AE10C22 | 総合演習II-b | 2 | 3.0 | 3 | 秋AB 秋ABC | 水6 随時 | 小野 正樹, 澤田 浩子, 田中 祐輔, 三好 優花 | 研究テーマごとにグループを編成し、複数教員による指導体制の中で、リサーチクエストの明確化と、研究計画の立案に取り組む。その後、教員とのチュートリアルを通して、卒業論文調査票を作成し、それに基づき主指導教員・副指導教員を決定する。 | 対面 |
| AE10C32 | 総合演習II-c | 2 | 3.0 | 3 | 秋AB 秋ABC | 水6 随時 | 江口 真規 | 研究テーマごとにグループを編成し、複数教員による指導体制の中で、リサーチクエストの明確化と、研究計画の立案に取り組む。その後、教員とのチュートリアルを通して、卒業論文調査票を作成し、それに基づき主指導教員・副指導教員を決定する。 | 対面 |
| AE10C42 | 総合演習II-d | 2 | 3.0 | 3 | 秋AB 秋ABC | 水6 随時 | 鈴木 伸隆, 朴 宣美 | 研究テーマごとにグループを編成し、複数教員による指導体制の中で、リサーチクエストの明確化と、研究計画の立案に取り組む。その後、教員とのチュートリアルを通して、卒業論文調査票を作成し、それに基づき主指導教員・副指導教員を決定する。 | 対面 |
| AE10C92 | 総合演習IV | 2 | 3.0 | 3 | 春ABC | 随時 | 日本語・日本文化 学類関係教員 | 研究テーマごとにグループを編成し、複数教員による指導体制の中で、リサーチクエストの明確化と、研究計画の立案に取り組む。その後、教員とのチュートリアルを通して、卒業論文調査票を作成し、それに基づき主指導教員・副指導教員を決定する。 | AE10C12/AE10C22/AE10C32/AE10C42に相当。 留学または休学した学生対象の科目であり、履修にあたっては相談を要する。 対面 |
| AE10D12 | 卒業論文演習I | 2 | 3.0 | 4 | 春AB | 随時 | 日本語・日本文化 学類関係教員 | 卒業論文作成のための指導を行う。 | 対面 |
| AE10D22 | 卒業論文演習III | 2 | 3.0 | 4 | 秋AB | 随時 | 日本語・日本文化 学類関係教員 | 卒業論文作成のための指導を行う。 | AE10D12に相当。留学または休学した学生対象の科目であり、履修にあたっては相談を要する。 対面 |
| AE10E12 | 卒業論文演習II | 2 | 3.0 | 4 | 秋AB | 随時 | 日本語・日本文化 学類関係教員 | 卒業論文作成のための指導を行う。 | 対面 |
| AE10E22 | 卒業論文演習IV | 2 | 3.0 | 4 | 春AB | 随時 | 日本語・日本文化 学類関係教員 | 卒業論文作成のための指導を行う。 | AE10E12に相当。留学または休学した学生対象の科目であり、履修にあたっては相談を要する。 対面 |
| AE10F18 | 卒業論文 | 8 | 6.0 | 4 | 秋ABC | 随時 | 日本語・日本文化 学類関係教員 | 卒業論文を作成する。 | 対面 |
| AE10F28 | 卒業論文 | 8 | 6.0 | 4 | 春ABC | 随時 | 日本語・日本文化 学類関係教員 | 卒業論文を作成する。 | 留学または休学した学生対象の科目であり、履修にあたっては相談を要する。 対面 |

日本語・日本文化研修留学生

| 科目番号 | 科目名 | 授業方法 | 単位数 | 標準履修年次 | 実施学期 | 曜時限 | 担当教員 | 授業概要 | 備考 |
|---------|--------------------|------|-----|--------|-----------|----------|--------------|---|----------------------------|
| AE81N13 | 日本語・日本文化実験 実習 | 3 | 1.0 | 1 | 秋B 秋AC | 集中 随時 | 田中 祐輔 | 学外での研修を通して日本文化に直接接する。研修前には事前学習を行い、研修後は各自のテーマでレポートを作成する。 | 日本語・日本文化研修 留学生対象。 対面 |
| AE82N22 | 日本語・日本文化基礎 研究 | 2 | 1.0 | 1 | 秋AB | 随時 | 田中 祐輔 | 修了レポート作成のための予備指導を行う。 | 日本語・日本文化研修 留学生対象。 対面 |
| AE82N32 | 日本語・日本文化特別 研究 | 2 | 2.0 | 1 | 春AB | 随時 | 江口 真規, 田中 祐輔 | 修了レポート作成のための指導を行う。 | 日本語・日本文化研修 留学生対象。 対面 |
| AE82N48 | 日本語・日本文化修了 レポート | 8 | 2.0 | 1 | 春ABC | 随時 | 江口 真規, 田中 祐輔 | 各自の研究テーマについて、各指導教員のもとで修了レポートを作成する。 | 日本語・日本文化研修 留学生対象。 対面 |